

平成 24 年 5 月
消費者委員会

アンケート調査の結果概要

1 「健康食品」の利用状況等

(消費者が健康食品を利用する頻度)

- ほぼ毎日利用している者とたまに利用している人を加えると、約 6 割の消費者が健康食品を現在利用している（消費者の約 4 分の 1 がほぼ毎日利用）。
- 50 代以上の約 3 割が健康食品をほぼ毎日利用している。

(健康食品に消費者が毎月支出する額)

- 健康食品への支出は、約 7 割が月額 3,000 円未満。ただし、20 代・30 代をみると、1,000 円未満と回答した者の割合が高い。

(消費者が健康食品を購入する先)

- 健康食品の購入先は、利用者の約 6 割が「店舗購入」と回答しており、ついで「インターネット通販」や「インターネット以外の通販（カタログ等）」の利用率も高くなっている。
- 年齢で見ると、20 代・30 代は店舗購入の割合が高く、特に 20 代では、店舗購入をしている者が約 8 割にのぼる。一方、50 代以上をみると店舗購入が約 5 割であるものの、インターネット通販やインターネット以外の通信販売で購入している者の割合が他の世代よりも高い。

(健康食品に関する情報収集経路（メディア媒体等）)

- 健康食品を購入する際の情報収集にあたって、主にインターネットやテレビ・ラジオの CM が利用されている。

(医療機関の受診の有無)

- 医療機関への受診等をすることなく、健康食品で不健康な状態を改善しようとした経験がある者は約 4 割。生活習慣病の方など、特に食品の安全性や健康状態に配慮する必要があるとされる者では、約 5 割がそうした経験を持つ。（特に「生活習慣病予備軍」の者に選択率が高い）。
- 健康食品で改善しようとした不健康な状態は、主にダイエットやコレステロール値の改善、カルシウムの補給を目的としたものがあげられている。

2 「健康食品」を利用する目的や満足度等

(消費者が健康食品に抱く満足感)

- 約6割の利用者が概ね満足している。
- 「不満」又は「やや不満」と回答した人の約8割が「期待したほどの効果がなかった」と感じている（なお、消費者全体で見ると、「期待したほどの効果がなかった」と感じている者は約3割。）。
- 「体調が悪くなった（悪くなったと感じた）」経験を持つ利用者の割合は低い。
- 健康被害が疑われるトラブルが発生した場合に、通報する先が散在。特に保健所へ通報する割合が低く、健康被害が疑われるトラブルに関する情報は多くが潜在している可能性がある。

(消費者が健康食品を利用する目的)

- 健康食品について、体調の維持や健康の増進の目的で利用していると回答した者の割合が高く、特定の事項（美容・ダイエット等）を目的とした者の割合は14～15%と比較的低い。また、約1割、病状の改善目的での利用も見られる。

(消費者が健康食品に対して重視する事項（「効き目・有効性」、「安全性」、「価格」等）)

- 購入時最も重視するポイントとして、「効き目・有効性」と回答した利用者は約5割と最も多い。一方で、「安全性」（約3割）や「価格」（約2割）は「効き目・有効性」と比べて少なく、「味や飲みやすさ」を重視する利用者は僅かであった。

(健康食品を購入する際に参考にする情報（原材料名や含有成分名、機能性、製造業者名・販売業者名、他者による評価等）)

- 購入の際に参考にする情報として、「機能性（効果・効能）」と回答した者は、63%。ついで、「含有成分名・含有分量」（61%）、「原材料名」（55%）、「製造した国」（42%）、「含まれる成分が無添加・天然由来」（40%）、「製品のブランド名」（39%）といった、『食品の成分に関する基礎的な情報』を参考にしている。
- 消費者にとって、広告や口コミ等が購入の際のどの程度参考になっているのかをみると、「ランキングや口コミ情報」が24%、「利用者●万人突破」といったような利用実績をPRする広告は10%である。一方、「著名人等の体験談」を参考していると回答した者は、4%。
- 「行政機関の提供する安全性等に関する情報」を参考にしたと回答した者は12%であり、必ずしも十分に利用されているとは言えない。

(「機能性表示」に対する消費者のニーズ)

- 利用者はある程度価格が高くなったとしても機能性表示をしてほしいと考えている傾向がある。

3 サプリメントの利用状況

(消費者が併用しているサプリメントの種類)

- 約5割の利用者が2種類以上のサプリメントを利用。年齢が上がるほど、複数のサプリメントを利用する割合が増える傾向がある。

(処方薬との関係)

- 健康食品の現在利用者のうち、34%は病院からもらった処方薬と健康食品を併用している。また、肥満・生活習慣病（その予備軍を含む）・アレルギー体質の者の46%が処方薬と健康食品を併用している。
- 医薬品の処方にあたり、健康食品の利用者のうち通院をしている者の約8割が医師等から健康食品の利用状況に関する確認を受けていない。

(健康食品に表示されている摂取目安量の遵守状況)

- サプリメント利用者の約9割が摂取目安量を遵守し、又はそれより少ない量で利用していると回答した。
 - ◇ なお、「摂取目安量の表示がない」、という回答は全体の0.1%であり、概して、摂取目安量の表示が行われている可能性が高いと推測される。
- 摂取目安量表示について義務化は55%。義務化が必要ないが36%。摂取目安量表示の義務化を不要と回答した者の約6割がその理由を「利用者の判断で適切な量摂取すればよいから」と回答。

以上